

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年11月12日

【四半期会計期間】 第54期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 N C S & A 株式会社

【英訳名】 NCS&A CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 辻 隆 博

【本店の所在の場所】 大阪市中央区城見1丁目3番7号

【電話番号】 (06)6946-1991(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員常務 経営戦略室長 小林 裕明

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区城見1丁目3番7号

【電話番号】 (06)6946-1991(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員常務 経営戦略室長 小林 裕明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
N C S & A 株式会社東京本社
(東京都江東区豊洲5丁目6番36号)
N C S & A 株式会社名古屋支社
(名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第2四半期 連結累計期間	第54期 第2四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	9,332,022	10,943,072	20,457,182
経常利益 (千円)	294,744	550,534	791,810
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	218,339	644,519	573,295
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	278,660	660,997	153,588
純資産額 (千円)	8,706,222	8,967,676	8,583,686
総資産額 (千円)	15,157,306	16,376,745	16,550,878
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	11.86	35.08	31.13
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.4	54.8	51.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	166,882	230,147	1,148,814
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	51,116	49,631	72,622
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	169,246	338,174	246,209
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	6,710,047	7,011,790	7,632,849

回次	第53期 第2四半期 連結会計期間	第54期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	13.71	16.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、すべての期間において潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中の通商問題に係る緊張増大による影響が懸念されるなか、企業収益は高い水準で底堅く推移し、雇用・所得環境にも改善が見られるなど、緩やかな回復が続きました。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、AI、IoT、ビッグデータ、RPA（ロボティックプロセスオートメーション）等の技術を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通じて価値を創造し、競争上の優位性を確立する「デジタルトランスフォーメーション（DX）」に関するIT投資や、コンプライアンス対策、法令対応を目的としたIT投資、「働き方改革」の実現に向け業務効率化を目的としたIT投資等、国内企業のIT活用は多様化しており、市場環境は緩やかな改善が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、「主力ソリューションの商品力強化」及び「営業力の強化」を両輪とした「トップライン（売上）の拡大」を基本方針とし、安定した収益基盤の確立に向け、積極的な投資及び積極的な受注活動を推進いたしました。

ホテルシステム事業につきましては、インバウンド旅行者の増加を背景とした新設ホテルの開業が続くなか、積極的な受注活動を推進し、売上、利益ともに引き続き堅調に推移いたしました。また、2019年10月より実施の消費税の軽減税率制度へのシステム対応案件が、ホテルシステム事業、外食システム事業を中心に増加いたしました。

自社開発製品であるシステムの可視化ソリューション「REVERSE PLANET（リバースプラネット）」につきましては、経済産業省が警鐘を鳴らしている「2025年の崖」問題（老朽化・肥大化・複雑化及びブラックボックス化した既存システムがDX推進の足かせとなり、ひいては国際競争への遅れや経済停滞に繋がる）に関連し、システムの可視化に対する顧客ニーズが高まりを見せるなか、既存顧客の深耕やアライアンス先との協業による導入ユーザー数の拡大に努め、売上が伸長いたしました。また、2019年から2020年にかけて予定されているWindows7等のサポート終了に伴い、パソコン及びサーバ機器の更新需要を積極的に取り込んだ結果、ハードウェア売上が大きく増加いたしました。

受注を拡大させる一方で、開発プロジェクトの損失を最小限に抑えるべく、PMO（プロジェクトマネジメントオフィス）が現場に一步踏み込んで課題を共有し、現場とともに課題解決にあたりました。問題プロジェクトの「キズ」を最小限に抑えていくことで、売上総利益率の改善につながりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期に比べ16億11百万円（17.3%）増収の109億43百万円となりました。利益面につきましては、販売費及び一般管理費が前年同四半期に比べ増加したものの、増収効果及び売上総利益率改善による売上総利益の増加がそれを吸収したことから、営業利益は前年同四半期に比べ2億45百万円改善の5億22百万円、経常利益は前年同四半期に比べ2億55百万円改善の5億50百万円となりました。また、当第1四半期において、顧客のシステム統合化計画の見直しにより、導入済みの当社開発パッケージに係る保守契約の途中解約が発生いたしました。これに伴い発生した違約金収入1億55百万円を特別利益に計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べ4億26百万円改善の6億44百万円となりました。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は163億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億74百万円減少いたしました。流動資産は138億56百万円となり、1億42百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加(3億48百万円)、仕掛品の増加(3億円)、現金及び預金の減少(6億33百万円)、商品の減少(1億36百万円)等であります。固定資産は25億20百万円となり、31百万円減少いたしました。主な要因は、繰延税金資産の増加(73百万円)、差入保証金の増加(42百万円)、その他に含まれる保険積立金の減少(83百万円)、無形固定資産の減少(39百万円)、有形固定資産の減少(30百万円)等であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は74億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億58百万円減少いたしました。流動負債は37億33百万円となり、4億55百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少(1億40百万円)、未払金の減少(1億29百万円)、賞与引当金の減少(80百万円)、支払手形及び買掛金の減少(64百万円)等であります。固定負債は36億75百万円となり、1億2百万円減少いたしました。主な要因は、退職給付に係る負債の減少(63百万円)、リース債務の減少(22百万円)、繰延税金負債の減少(10百万円)等であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は89億67百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億83百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加(4億23百万円)、自己株式の増加(59百万円)等であります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末の51.9%から54.8%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ6億21百万円減少し、70億11百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は2億30百万円(前年同四半期は1億66百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上(7億2百万円)等による収入に対して、売上債権の増加(2億88百万円)、法人税等の支払額(2億67百万円)、たな卸資産の増加(1億63百万円)、仕入債務の減少(1億38百万円)等の支出によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は49百万円(前年同四半期は51百万円の収入)となりました。主な要因は、無形固定資産の取得(44百万円)等の支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3億38百万円(前年同四半期は1億69百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払(2億21百万円)、自己株式の取得(65百万円)、リース債務の返済(38百万円)等の支出によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針及び目標とする経営指標等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は78百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,000,000	20,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	株主としての権利内容に 制限のない、標準となる 株式であり単元株式数は 100株であります。
計	20,000,000	20,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月30日		20,000,000		3,775,100		2,232,620

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ZEN	兵庫県西宮市	1,851	10.11
日本電気株式会社	東京都港区芝5丁目7番1号	1,605	8.76
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,061	5.80
丸山幸男	群馬県館林市	994	5.43
NCS & A従業員持株会	大阪市中央区城見1丁目3番7号	661	3.61
株式会社日本信用情報機構	東京都台東区北上野1丁目10番14号	530	2.90
小路口謙治	大阪府豊中市	433	2.37
株式会社クリナム	東京都中央区日本橋箱崎町17番1号	398	2.17
アイ・システム株式会社	東京都千代田区九段南4丁目8番13号	398	2.17
梶川融	東京都渋谷区	397	2.17
計	-	8,331	45.49

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,682千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,682,800		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,303,800	183,038	同上
単元未満株式	普通株式 13,400		同上
発行済株式総数	20,000,000		
総株主の議決権		183,038	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が43,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数430個が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式13株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) NCS & A株式会社	大阪市中央区城見 1丁目3番7号	1,682,800		1,682,800	8.41
計		1,682,800		1,682,800	8.41

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,760,271	7,126,812
受取手形及び売掛金	¹ 5,217,935	5,566,386
商品	459,528	322,533
仕掛品	² 335,253	² 635,458
その他	226,408	205,550
貸倒引当金	268	305
流動資産合計	13,999,128	13,856,437
固定資産		
有形固定資産	343,542	313,518
無形固定資産	454,036	414,621
投資その他の資産		
投資有価証券	³ 917,131	³ 892,950
繰延税金資産	113,097	186,223
差入保証金	247,103	289,841
その他	547,129	474,844
貸倒引当金	70,291	51,691
投資その他の資産合計	1,754,171	1,792,168
固定資産合計	2,551,749	2,520,308
資産合計	16,550,878	16,376,745

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 777,017	712,298
1年内返済予定の長期借入金	30,361	12,770
リース債務	72,328	67,327
未払金	1,204,013	1,074,023
未払法人税等	345,266	204,547
賞与引当金	847,481	766,752
役員賞与引当金	67,172	59,950
受注損失引当金	2 3,342	2 -
その他	842,233	835,785
流動負債合計	4,189,216	3,733,455
固定負債		
長期借入金	30,008	25,010
リース債務	104,062	81,374
退職給付に係る負債	3,611,247	3,547,259
長期未払金	21,970	21,970
繰延税金負債	10,687	-
固定負債合計	3,777,975	3,675,613
負債合計	7,967,192	7,409,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,775,100	3,775,100
資本剰余金	4,738,134	4,741,571
利益剰余金	935,538	1,358,922
自己株式	438,223	497,531
株主資本合計	9,010,549	9,378,062
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	190,363	173,028
為替換算調整勘定	6,032	2,395
退職給付に係る調整累計額	623,259	585,809
その他の包括利益累計額合計	426,863	410,385
純資産合計	8,583,686	8,967,676
負債純資産合計	16,550,878	16,376,745

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,332,022	10,943,072
売上原価	7,121,712	8,194,222
売上総利益	2,210,310	2,748,850
販売費及び一般管理費	1 1,932,852	1 2,226,260
営業利益	277,457	522,589
営業外収益		
受取利息及び配当金	12,012	14,548
未払配当金除斥益	4,728	3,170
その他	5,609	10,797
営業外収益合計	22,351	28,517
営業外費用		
支払利息	765	395
有価証券売却損	2,310	-
為替差損	1,929	-
その他	59	176
営業外費用合計	5,064	572
経常利益	294,744	550,534
特別利益		
違約金収入	-	2 155,820
特別利益合計	-	155,820
特別損失		
事務所移転費用	-	3,957
特別損失合計	-	3,957
税金等調整前四半期純利益	294,744	702,396
法人税、住民税及び事業税	90,457	134,047
法人税等調整額	14,052	76,170
法人税等合計	76,405	57,877
四半期純利益	218,339	644,519
親会社株主に帰属する四半期純利益	218,339	644,519

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	218,339	644,519
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,498	17,334
為替換算調整勘定	4,111	3,637
退職給付に係る調整額	15,935	37,450
その他の包括利益合計	60,321	16,477
四半期包括利益	278,660	660,997
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	278,660	660,997
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	294,744	702,396
減価償却費	123,511	138,125
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	57,638	26,537
賞与引当金の増減額(は減少)	155,394	80,729
受注損失引当金の増減額(は減少)	16,335	3,342
受取利息及び受取配当金	12,012	14,548
支払利息	765	395
有価証券売却損益(は益)	2,310	-
違約金収入	-	155,820
役員賞与引当金の増減額(は減少)	3,300	7,222
売上債権の増減額(は増加)	136,252	288,694
たな卸資産の増減額(は増加)	438,734	163,209
仕入債務の増減額(は減少)	69,218	138,091
差入保証金の増減額(は増加)	4,516	49,357
保険積立金の増減額(は増加)	7,915	83,991
未払金の増減額(は減少)	116,516	34,353
未払消費税等の増減額(は減少)	1,828	22,261
その他	47,596	75,831
小計	156,868	135,090
利息及び配当金の受取額	12,005	14,545
利息の支払額	756	411
違約金の受取額	-	158,620
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,234	267,810
営業活動によるキャッシュ・フロー	166,882	230,147

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	40,018	40,022
定期預金の払戻による収入	40,014	52,421
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	735	797
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	192,678	-
有価証券の償還による収入	20,000	-
有形固定資産の取得による支出	61,002	8,667
無形固定資産の取得による支出	89,900	44,282
その他	9,919	8,282
投資活動によるキャッシュ・フロー	51,116	49,631
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50,000	-
長期借入金の返済による支出	37,483	22,589
リース債務の返済による支出	40,953	38,578
配当金の支払額	147,229	221,135
自己株式の取得による支出	20	65,441
自己株式の売却による収入	6,440	9,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	169,246	338,174
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,548	3,106
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	45,203	621,059
現金及び現金同等物の期首残高	6,664,843	7,632,849
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,710,047	7,011,790

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	35,685千円	-千円
支払手形	58,164千円	-千円

- 2 損失が見込まれる請負契約プロジェクトに係る仕掛品は、これに対応する以下の受注損失引当金を相殺表示しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
仕掛品にかかるもの	28,783千円	48,923千円

- 3 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
投資有価証券(株式)	3,000千円	3,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
役員報酬	137,734千円	135,662千円
役員賞与引当金繰入額	-千円	59,950千円
給料手当及び賞与	792,819千円	859,396千円
賞与引当金繰入額	90,191千円	178,407千円
退職給付費用	60,834千円	83,089千円
福利厚生費	247,958千円	280,274千円
賃借料	87,523千円	99,170千円
旅費及び交通費	54,659千円	55,586千円
研究開発費	61,155千円	78,924千円

- 2 違約金収入

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

顧客のシステム統合化計画の見直しにより、導入済みの当社開発パッケージに係る保守契約を途中解約したい旨の申し入れがあったことから、契約により受領した違約金から解約に関する費用を差し引いた金額を特別利益に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	6,825,066千円	7,126,812千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	115,018千円	115,022千円
現金及び現金同等物	6,710,047千円	7,011,790千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月15日 取締役会	普通株式	147,229	8.00	2018年3月31日	2018年6月7日	資本剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	221,135	12.00	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはソフトウェア開発を中心とするコンピュータ関連総合会社で、コンピュータ関連機器販売及びソフトウェア開発の両面を事業分野としております。

顧客の利用目的に応じたコンピュータ機器の選定とソフトウェア開発を主とするITサービスを事業内容としており不可分の営業形態の単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1 株当たり四半期純利益	11円86銭	35円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	218,339	644,519
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	218,339	644,519
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,412	18,372

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、すべての期間において潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月6日

NCS & A株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岡本健一郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	樋野智也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNCS & A株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NCS & A株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。